

ボランティア



イラスト:ico.

全国からの参加者延べ数が、1万人を超えました。東日本大震災から10月まで毎月ボランティアを募集します。初めての方も、経験者の

どんな人が参加しているの？

各回の参加は50～140名程度。割合を見ると、プロジェクトの支援企業などが社内で希望者を募る“グループ参加”が多く、新入社員研修と位置づけ、ベテラン社員と新人数名で毎回参加する地元企業もあります。グループといっても、バスを仕立てる50人超の大所帯もあれば、自家用車1台分の人数での参加など、規模はさまざまです。

もちろん“個人参加”も少なくありません。グループ参加をきっかけに、その後は個人で通ってくださる方もいれば、自転車に乗ってくる地元の高校生、栃木県から毎回自家用

車で駆けつける会社員、夫婦や親子での参加も見られます。遠方から参加される方は、せっかくだからとボランティア以外にも楽しい計画を立てて来られる方も多いようで、毎年奈良県から高速バスで参加するシニアの登山仲間は、活動翌日に山登りへ。後泊して、レンタカーで被災地巡りをする方も。また、保護者の責任の下、未就学児も含めた小さなお子さんが参加してくれることもあります。

こうして全国の老若男女が集まるので、別々に住んでいる親子、しばらく会っていなかった親戚や同級生が、バツタリ顔を合わせるといった偶然もあるようです。



所属先のピブスを着用するグループ参加の方が目立つ



数社混成チームで協力!



子どもの作業を大人がサポート

〈2020年 ボランティアの日〉

- 日 程 3月28日／4月18日／5月23日／6月20日／7月4日・18日／8月22日／9月12日・26日／10月10日 いずれも土曜日
※本誌2月号で10月の活動日を3日としましたが、10日に変更しました
- 時 間 9時～17時
- 集合場所 オイスカ名取事務所(宮城県名取市下増田北原東478) 詳細、お申し込みはこちら→<http://www.oisca.org/kaiganrin/2994>

名取発、世界へ

名取市の海岸全長5kmへのクロマツの植栽を、計画より2年早い2018年に終えることができましたが、現場スタッフは「まだ始まったばかり」という認識です。「完全復旧といえる50年後の姿を描き、これまでの林業技術を活かし、多様な機能を有する防災林に仕立てる」とは、佐々木廣一名取事務所統括の言葉です。また、清藤城宏緑化技術参事は、「江戸時代から海岸林は、事実上の禁伐だったのに対し、今後は気候変動に対して強靱な防災林として機能するように、行政は本数調整伐(間伐)政策に舵を切るでしょう。その先陣の一端を担うのがこのプロジェクト」と先を見据えています。

21年から新たにスタートする第2次10カ年計画では、下刈、除伐、つる切り、排水路の増設、ゴミ拾いなどのほかにも松枯れや火事などを想定した各種リスク対策が続きます。本数調整伐も、遠からず始まると予想され、1haあたり5千本の現在の状態から断続的に伐採し、40年ほどで1千本程度にすると思われます。

これまで9年間、オイスカの力を信じて託して下さった行政当局、「苗半作」(良い苗ができれば植栽は半

ここから、つづける、

「海岸林再生プロジェクト」(以下、プロジェクト)では2013年からボランティア募集を開始。昨年6月、から9年が経過しましたが、今後も海岸林の保育活動には多くの手を必要としています。今年も4月からも引き続き現場に足を運んでもらえるようあらためてボランティア活動日の様子をお伝えします。

何が必要？

持ち物としては、飲料、弁当、タオルを必須とし、念のため医薬品、保険証などの用意もお願いしています。季節によっては日焼け止めやマスクなど、また雨天の場合は、レインコートもご用意ください。服装は、長袖・長ズボン、長靴または運動靴、帽子、軍手(グリップ付きやラバー付きと呼ばれる手のひら側が全面ゴムのものがおすすめ)を標準としています。飲み物やタオルなどを入れるためにリュックサックの持参も勧めています。

ボランティア保険は、オイスカで加入していますので、必須ではありません。

1日の流れは？

① 9:00 オイスカ名取事務所集合

集合場所への最寄り駅は空港アクセス線の美田園駅(徒歩25分)。事務所(男女別に更衣室あり)で作業着に着替え、スタンバイ。

② 9:00~9:30 オリエンテーション

スケジュールや作業内容などを説明。グループ分けや海岸への移動手段の確認などを行います。

③ 9:30~10:00 バスなどで海岸林に移動

弁当や着替えは事務所に置き、必要なものだけ持って移動。作業場所や使用車両などにより所要時間は異なりますが、車で10~20分程度。

④ 10:00~12:00 グループに分かれて作業

指導員が作業内容を説明し、作業開始。休憩時間を挟みながら自分の体力に合わせて進めます。

⑤ 12:00~13:00 事務所に戻り昼食

事務所や更衣室(畳敷き)で昼食。地元の皆さんや支援企業からの差し入れがあることも!

⑥ 13:00~16:00 海岸林に移動し、作業再開

⑦ 16:00~16:30 事務所に戻り、片付け・着替え

有志で鍬や鎌などの道具を洗い、メンテナンス。遠方からの参加者はその間に着替えを済ませます。

⑧ 16:30~17:00 終わりの会/解散

指導者からの総括の後、参加者から感想を共有してもらいます。



事務所から海岸へ移動する途中、震災遺構の見学をすることも

テントやブルーシートを持参してお昼休憩をするグループも

分成功の意味)を合言葉にした「名取市海岸林再生の会」や林業の職人集団の力はもとより、プロジェクトを我が事と捉え、汗を流してください。1万人以上のボランティアという一大戦力に恵まれ、無事故で進めてこられました。このチームによる育苗、植栽、保育の「一貫施業」で、当初の計画より大幅な低コスト運営が実現でき、33年までとしていた保育管理の計画を7年延長することができました。地権者である市・県・国に最強の防災林を返還してミツシオンは完了となります。

当プロジェクトの一切は、会員の皆さんをはじめとする国内外からのご支援のおかげです。寄附金は8億円に迫っています。21年3月までと期限を区切り、今後も目標の10億円に近づけるよう努力していきます。

21年以降は、「名取発、世界へ」という気持ちで、プロジェクトの経験とノウハウを、各国オイスカの仲間とともに世界のために活かしたいと考えています。主にはSDGsの達成期限である30年に向け、その達成への貢献とあわせ、各国現場でのEcoDRR(森林など生態系を活用した防災減災)の推進に力を入れていく所存です。

プロジェクト担当部長
吉田俊通